

2019
5月号

＊原水協通信

国連NGO原水爆禁止日本協議会

毎月1回6日発行

頒価 220円

電話 (03)5842-6031

FAX (03)5842-6033

〒113-8464 東京都文京区湯島 2-4-2-4



原水爆禁止大阪府協議会 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号 tel(06)6765-2552 fax(06)6765-2837

平和行進、世界大会にむけ署名の推進を

核兵器のない世界を望む国内外の広範な世論に応えて
唯一の戦争被爆国として核兵器禁止条約に調印を

兄に背負われた弟は、すでに亡くなり、弟の火葬の順番を待っています。悲しみをこらえるため唇を強くかみしめ、血がにじんでいた、とカメラマンが語っています。1945年に米軍のカメラマン、故ジョー・オダネルさんが原爆投下後の長崎で撮った写真です。核兵器廃絶を訴えるフランスの法王は「この写真に印刷し、配布しました。被災地から平和のメッ

セージを世界に発信したいと思う法王の気持ちに伝わりません。法王は今年の11月に日本の訪問を予定しています。

米軍のカメラマン、故ジョー・オダネルさんは、ヒロシマ・ナガサキなどで写真を撮り続けました。

当時アメリカでは原爆神話がふりまかれていました。「原爆は事前に警告され、民間人ではなく軍事基地を攻撃した」「戦争を早く終結させた」「本土決戦が回避され、100万人の米国人、それ以上の日本人が救われた」「米国は神に選ばれ、慈悲深い行いをした救世主」「放射性物質は熱と爆風によっておろし影

響がない」など...

2007年8月9日に85歳でジョー・オダネルさんはなくなりました。原爆正當化論が激しい米国の中、彼は各地で写真展を開き「核戦争を繰り返さない」を訴え続け、ヒロシマ・ナガサキの原爆被害の実相を伝えました。

原爆神話が続く限り、アメリカが、そして世界も核兵器の廃絶にむかうはずはありません。

原爆が落とされて74年。世界の流れは「核兵器禁止条約」にむけて大きく動き出しています。平和行進、世界大会の取り組みを通し「ヒバクシャ国際署名」を大きく進めていきましょう。

五月一日、扇町公園で第90回大阪メーデーが、「働くものの団結で生活と権利を守り、暴走政治ストップ、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をメイン・スローガンのもと開催されました。

から平和のメッ

この写真をご存知です



焼き場の少年。

1945年9月、広島原爆から長門に入った私は、小高い丘から下を眺めていました。10歳くらいの赤い髪の子が背に赤い布を巻いて、おんぶをたすき掛けにして、背中を赤く焼いていました。少年は目を閉じて、口をきつめていました。おんぶの子が死んでいるのに気がつきました。強い熱が火に燃え、ジュースと煙が立ちました。まばゆい光が舞い上がり、直立不動の少年のあどけない顔を夕陽のように照らしました。涙を流すように見つめる少年の顔には血がにじんでいました。あまりにもまじく顔を噛みしめているので、唇の血は濡れず下唇を噛み続けていました。気が休まる時、少年はくもりとまひすを流し、涙のまじりかたを流していききました。背筋が凍るような光景でした。

photo+text ジョー・オダネル (原水協大阪府協議会)

核兵器をめぐる情勢を学び、平和行進、世界大会成功にむけての「つどい」を行います。ご参加を

◎日時 5月25日(土)14:00~16:00
◎場所 大阪グリーン会館2階ホール

ヒバクシャ国際署名

52万 5000 筆 (4月25日現在)

核兵器禁止条約調印国&批准国

70 カ国、23 カ国 (2019年4/11現在)

4月11日、新たにパナマが23カ国目の国として批准書を国連事務総長に寄託

大阪原水協がヒバクシャ国際署名の先頭に！ ～第90回大阪メーデー会場～



五月一日、扇町公園で第90回大阪メーデーが、「働くものの団結で生活と権利を守り、暴走政治ストップ、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をメイン・スローガンのもと開催されました。会場入り口で川辺和宏大阪原水協理事長、続昌司事務局長らが署名の先頭にたって訴えました。途中雨が強く中止を余儀なくされました。「ヒバクシャ国際署名」をすすめる意気込みだけは理解していただきたいと思います。

